



1月の安全就業重点事項

雪道・凍結路での 歩行注意、安全運転

<具体的推進事項>



- ① 歩行者は滑り止め付きの履物を使用
- ② 雪道では自転車に乗らない
- ③ 自動車は「急加速・急ブレーキ・急ハンドル」をしない

① 雪道を歩く際の注意

雪が積もる屋外の作業は少ないかと思いますが、自宅と就業場所との往復の際に、雪道を歩くことは多いでしょう。下記の事項を参考に、転倒事故の防止に努めましょう。



- ① 滑りにくい靴を履きましょう。
- ② 小さな歩幅で、靴の裏全体をつけて歩きましょう。
- ③ 脚力を強化する運動をしましょう。
- ④ 転んでも大きなケガにならない服装で出かけましょう（コート、帽子、手袋）。
- ⑤ 歩行経路の中から滑りやすい場所を把握しておきましょう。

<参考>「転ばないコツ教えます」

ホームページ… <http://tsurutsuru.jp/>



◆事故の発生状況◆ 令和3年度

	令和3年 12月発生	年度 累計	前年度 累計
労災	0	3	2
傷害事故	0	3	4
賠償責任事故	0	7	2
自動車事故	0	3	1
計	0	16	9

② 雪道の安全運転のポイント

冬道は、路面の凍結・積雪または降雪による視野の制限など、平常時に比べいわゆる「冬型事故」が起きることが多くなっています。注意すべきポイントをまとめましたので、安全運転にお役立てください。

スピードを落とし車間距離をとる

降雪路や積雪路を走行するときは、スピードを落とし、車間距離を十分にとって走行しましょう。特にカーブはスリップしやすいので、カーブの手前であらかじめ十分に減速してから進入しましょう。また、前方の交差点が赤信号の場合には、早めに減速します。交差点付近は特に路面が滑りやすいため、減速のタイミングが遅れると手前で停止できずに交差点に進入してしまう危険がありますから注意しましょう。

ブレーキはソフトに踏む

雪道で強くブレーキを踏むとスリップを招きますからブレーキはソフトに踏んで徐々に停止するようにしましょう。また、急ハンドルや急ブレーキ、急発進などの「急」のつく運転もスリップの大きな原因となりますから避けましょう。

視界が悪いときは無理をして先へ進まない

激しい降雪や吹雪などで視界が極端に悪くなったときに無理をして先へ進むのは大変危険です。早めに安全な場所に退避して様子を見るようにしましょう。

裏面もご覧ください

作業に適した靴を選びましょう (選び方のポイント)

① 重量

靴が重くなると、
つまずきの原因となります。
一足で 900g 以下のもの
をお勧めします。



② バランス

靴の重量がつま先
部に偏っていると、歩行
時につま先部が上がり
にくく、すり足になり、つま
ずきが生じ易くなります。



③ 靴底の耐滑性

日本工業規格
(JIS) に合格した靴を
お勧めします。
作業場の滑りやすさに
応じた靴を選びましょう。



④ つま先部の高さ

つま先部の高さが低い
と、ちょっとした段差に
つまずきやすくな
ります。



⑤ 靴の屈曲性

靴底が硬く曲がりにくい
と、すり足になりやすく、
つまずきの原因
となります。



⑥ 衝撃吸収性

靴底の衝撃吸収性に優れ
た靴は足の疲労防止、
飛び降りた際の骨折
予防効果が期待
できます。

